

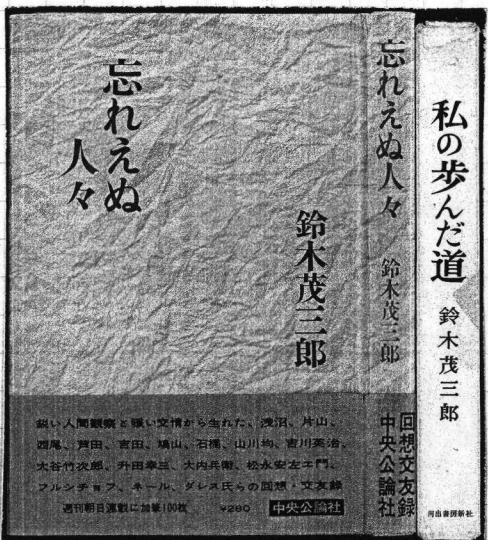
鈴木茂三郎 すずき しげちる 社会運動家、政治家。明治二十八年二月七日愛知
 縣生まれ、昭和四十五年五月七日歿（八五—一九七〇）。別名佐々木三郎、
 薄蔵八人。大正四年早稲田大學専攻部政経科卒。新聞記者を経て、昭和
 二年山川均等と雑誌『労働』を創刊。無産大衆黨、日本無産黨各書記
 長歴任、十二年人民黨選挙事件の檢舉。戦後日本社会運動組織に参加、一
 年参議院議員（当選九回）、二十六年黨委員長、三十年統一社会黨
 委員長。

著書『日本財閥論』（昭和九年九月十九日改造社）、『日本獨上資本
 の解剖』（昭和十年四月十八日學藝社）、『財界人物評論』（昭和十
 一年四月二十日改造社）、『社会主義的政府が出来たら』（監修（編）
 昭和十二年四月五日労働文化社）、『愛と闘争』（昭和二十四年五
 月一日労働文化社）、『若き日の思い出』（合著、昭和二十一年二月二
 十日旺文社編刊）、『回想の徳田球一』（合著、昭和二十一年十月二十
 日東京洋書館編刊）、『某月某日』（合著・溝口茂揮編、昭和二十一年
 四月二十五日日本経済新聞社）、『ある社会主義者の半生』（昭和二十
 二年四月二十一日文藝春秋新社）、『社会文庫』蔵書目録（明治・
 大正の民権並に社会主義の関する文
 献）（昭和二十四年現在・自版）、
 『私の歩んだ道』（昭和二十五年九
 月二十日河出書房
 新社）、『忘れえぬ
 人々』（昭和二十



月二十日河出書房
 新社）、『忘れえ
 ぬ人々』（昭和二十

二十八年七月二十五日中央公論社）等。



文獻、稻垣達郎編『社会文庫自録―鈴木茂三郎収集』(昭和五十七年
六月十日日本近代文学館「日本近代文学館収蔵資料自録」)等。